第2回平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備に関する懇談会 会議要旨

1 開催日時

平成30年10月15日(月) 9:30～11:00

2 開催場所

JMSアステールプラザ4階 大会議室A・B(広島市中区加古町4番17号)

3 出席者

(1) 懇談会委員(50音順)

氏名	団体名・役職
高妻 洋成	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
佐久間邦彦	広島県原爆被害者団体協議会 理事長
鈴木 康之	県立広島大学 教授
多賀 俊介	広島平和記念公園被爆遺構の保存を促進する会 世話人代表
福島 偉人	一般財団法人日本造園修景協会広島県支部 副支部長
三浦 正幸	広島大学 名誉教授
箕牧 智之	広島県原爆被害者団体協議会 副理事長

(計7名、欠席者なし)

(2) 事務局

国際平和推進部長、被爆体験継承担当課長、主幹、主査(計4名)

(3) 関係部局等

広島市市民局文化スポーツ部文化振興課文化財係 課長補佐(1名)

公益財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課 学芸員(1名)

4 議題

- (1) 試掘調査の基本方針について
- (2) 試掘調査箇所について

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

9名

7 会議資料名

(1) 事務局提出資料

- 平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備に関する懇談会 名簿
- 第2回平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備に関する懇談会 配席図
- 資料1 試掘調査の基本方針(案)
- 資料2 試掘調査箇所(案)
- 参考資料 平和記念施設保存・整備の基本方針について

(2) 委員提出資料

- 試掘候補地位置図

8 議事要旨

(1) 試掘調査の基本方針について

○事務局より説明 [資料 1]

○意見交換

(多賀委員) 質問を2点ほどします。資料1の左のほうの「主な流れ」の中で、「展示に適した被爆遺構が確認された場合」に「市民アンケート」をするということは、前回もお話があったんですが、具体的に何をアンケートするんでしょうか。それから、もう一つは、資料の3ページ「試掘調査の実施方法」で、右のほうの「イ 試掘調査の作業の概要」の「トレンチの規模と数」のことなんですが、私は専門でないのでよく分かりませんが、「家屋の間口などを特定する」という、この「間口を特定する」ということの意味と中味を説明してください。

(事務局) まず「市民アンケート」の内容についてでございます。先ほどの説明の中にもあったんですが、展示に適した遺構が試掘調査で発見された場合、まず事務局案として、整備方針素案を作成させていただきます。その整備方針素案について、市民の方々とか関係者の方々の意見を聴くためのアンケート調査を実施したいと考えております。あと、トレンチの規模と長さについての御質問がございました。こちらについては、例えば家屋が密集して建っていますので、隣どうしの家屋がある場合に、その家屋ごとの境界を確定するためには、例えば家屋の間口が4mであれば、3軒連なっている家屋の間口を特定するために、家屋の土地の縦に線を入れて掘削をしないと、その家屋の境界が確認できないと。境界が確認できれば、天神町筋と合わせて、間口が確認できると。そのために、長いトレンチ調査を行うということでございます。詳しくは、議題2のほうで、具体的なトレンチの長さについては御説明させていただきたいと思っております。

(箕牧委員) 掘削された後、いろんな物が出たときに、明らかにこれは個人の物、私の物だというような物が出た場合は、お返しされるのか、あるいはもう年月が経っているから時効になっているのか、お聞きしたい。もう一つは、「掘削方法」「試掘調査内容」等のところで、掘削時に我々の立ち会いなんかは許されるのかどうか、お聞きします。

(関係部局等) 完全に個人の物と特定でき、所有者が判明した場合は、遺失物法に従ってお返しするようになっております。これは文化財保護法でもそうっております。今回の場合は、個人の物だということが明らかになったらお返しするというかたちになるかと思っております。

(事務局) 2番目の御質問で、試掘の作業自体につきましては、名勝の保護と遺構の保存の観点から、作業自体は非公開で行いたいと考えております。もちろん、その試掘した結果につきましては、当然、整理をした上で、最終的には公表させていただこうと考えています。

(三浦座長) 一般的に発掘調査の調査中は、調査の妨げになるので、若しくは、調査というのはあちらこちらに穴を掘りますので、その穴に落ちる人がいて若干危険である、又は調査した所を多くの方に踏んでいただくと破壊になりますので、したがって調査中は御遠慮いただく。そして、調査が終わりましたところで、一般公開をするということになっております。ただし、委員の皆様方が、途中で、どうしても見ておきたいということに関しましては、本来、許可をするのがよいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。

(事務局) そのようにさせていただこうと思っております。

(三浦座長) ということでございますので、御希望がありましたら、調査中に申し出ていただければ結構でございます。ほかはいかがでございましょうか。

(鈴木委員) 文化財保護法上の手続きについてお伺いしたいんですけども、これは名勝の現状変更という届出でしょうか、文化庁のほうには。

(関係部局等) (届出ではなく、名勝の現状変更) 許可です。

(鈴木委員) この平和(記念)公園内は、いわゆる周知の遺跡には該当しないという考え方

でいいですか。

(関係部局等) 現段階では、名勝平和記念公園内での現状変更となっております。

(鈴木委員) 周知の遺跡かどうかということはどうなのでしょう。

(関係部局等) そのへんについては、まだ、名勝内の(現状変更許可)ということで考えております。

(鈴木委員) その点は、例えば、文化庁の考え方で、変わる可能性もあるということでしょうか。

(関係部局等) 名勝内なので、現状変更で対応いたします。

(鈴木委員) そういう方針で、市としては行かれるということですね。

(関係部局等) はい、現段階では。

(鈴木委員) はい、分かりました。

(佐久間委員) 2ページ目のBゾーンのほうでお伺いしたいんですが、「展示整備の内容の優位性」の〈景観〉というところで、「中島本通り沿い(現在の市道沿い)に展示すると、景観への影響が大きい」とありますね。これは具体的にどういうことなのでしょう。

(事務局) こちらにつきましては、例えば、樹木等が直近に立っていれば、展示の仕方にもよると思うんですけども、こういったものを新たに作っても、見え方として景観に与える影響が少ないんですが、中島本通り沿いにつきましては、今非常に見通しがいい状態なので、そこに何か新しい物を作るとすると、それが非常に景観に与える影響が大きいと考えているということでございます。

(三浦座長) 若干補足をいたしますと、地下を発掘しましたときに、露天で展示するわけにはいきませんので、それを保護するための建物、覆屋(おおいや)を架けるんですね。そうしますと、結構その中に人が入らなければいけませんから、結構立ちの高い覆屋(おおいや)になります。そういったことを考えてみますと、ちょうどこの真ん中辺りに、立ちの高い建物、しかもこの立ちの高い建物は、名勝として指定されている平和(記念)公園の景観にそぐわないのではないだろうかということなんです。

ほかはいかがでしょう。

(鈴木委員) 第1回の会議のときにいただいた資料で、2020年度の公開というのが一つの目安になっていたかと思うんですけども、現在は、2020年度ということは、取り敢えずは考えないということでしょうか。

(事務局) 今後の整備方針の策定の中で、こういった規模のものを、こういった形で作るかと、こういったところに大きく影響してくるので、そこは今、分からない状況ではあるんですが、今現在はまだ、2020年度に可能であれば整備したいと考えております。

(三浦座長) ほかに御意見ないでしょうか。

ここで決めなくてはならないのは、Aゾーンのほうを前回第一候補とし、Aゾーンで差し支えがなければAゾーンとし、Aゾーンに差し障りがある場合はBゾーンを第二候補として上げるということになっていたんですが、今回ここで、Bゾーンではなくて、Aゾーンのほうを試掘調査の対象とするということを決定してよろしいでしょうか。それについて御異論がありましたら、今からおっしゃっていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

ないですか。よろしいですか。

《一同、同意》

(三浦座長) はい、ありがとうございます。それでは、御同意いただいたようでございますので、試掘調査の対象はAゾーンということに決定いたしたいと思っております。

【懇談会としての意見(総括)】

◎試掘調査の基本方針は事務局提案どおりとし、試掘調査の対象区域としてAゾーンを選定する。

(2) 試掘調査箇所について

○事務局より説明 [資料 2]

○意見交換

(多賀委員) 2 ページ目の A-1 の留意事項なんですけど、「人々の生活の痕跡を示す遺構を探するため、住居のある西側を選定した」とあります。「人々の生活の痕跡」というのは、「住居」には限らないと思うんです。東側は病院とか事務所ですね。これも当然人々の生活の痕跡なので、なぜ西側に集中するのか。病院がですね、今回、進藤小児科は A-2 で引っかかるんですけども、これは小児科ですね。病院が原爆でもう壊されているんだと。特に小児科、子どもたちがそこで病気のときに回復できるような、そういう病院も壊されてしまった。そういうふうなかたちでですね、ただ生活の痕跡という、もっと膨らまして考えていただきたいので、西側に限る必要はないかなと思います。

(三浦座長) その点につきまして、説明できますか。

(事務局) ただいまおっしゃるとおり、人々の生活の痕跡というのは何も西側に限ったものではないというのは認識しているところです。ただ、(資料 1 の) 試掘(調査)の(基本)方針でもあったように、名勝平和記念公園である以上、どうしても試掘箇所というのは限られてしまいます。絞り込みをかけなければいけないという選択肢の中で、医療現場よりも、人々の、本当に無辜(むこ)の人々が暮らしていたという日常がより分かりやすいということで、普通の住居、そちらを選んだということでございます。

(多賀委員) おっしゃることは分かるんですけども、私は個人的にはピースボランテニアなんですけれども、当然完成したら、皆さんに、世界中の方たちに、次の世代の方たちにも、説明をしていく、そういうときに、やっぱりここにいらした方がどんなふうに原爆のときに悲惨な体験をされたのか、あるいは、被爆前の生活はどうだったというふうなことのデータが、そういう資料があまりないと、一応民家が出て、ここは今回は、例えば、材木店とか印刷所みたいなのがありますよというふうに書いてあるけれども、例えば、印刷所をだれがどのようにしていたのかとか、それから、材木店の加藤さんはどんなふうな生活をしていて、どんなふうに原爆で亡くなられたのかとかですね、そういうことについての検討が、まだあまりなされていないと思います。ということですね、私たちの会としては、これからまた資料をお示ししますけれども、やっぱり、やっぱり世界中の人に見てもらう、原爆は本当にひどいなということをより実感してもらうためには、この場所にいた、この方たちの家(うち)が、こんなふうになりました、その前はこうでした、こんなふうにして原爆で亡くなられていきましたという具体的な説明の資料がある場所を、優先的に試掘していただかないと、ちょっと、あまりこう、掘っても、それが出たから、ちょっと見て、ああ民家ですねぐらいのことでは、ちょっとこれはインパクトがないと思いますので、そういう観点で、ちょっと私どもの会でいろいろ資料を作りましたので、今日今から資料を配付させていただいて、ちょっと御説明したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(三浦座長) ほかの委員の方々はどうですか。多賀委員が資料を配って説明されてもよろしいでしょうか。

《一同、同意》

(三浦座長) 委員の方々の同意を得ましたので、配ってください。

《資料配付》

(三浦座長) それでは、多賀委員、説明をお願いします。

(多賀委員) それでは説明させていただきます。2 点ほどありますが、今お手元にお配りしました資料、これはですね、まあ簡単に言えば、アメリカの軍隊で原爆投下をする前、7 月 25 日、航空写真、それに、今の国土地理院の地図、細かい地図を重ね合せたものです。この資料を作成されたのは、私の友人でもあるんですけども、御存じの方もいらっしゃると思いますけれども、(広島) 平和記念資料館の調査研究会の会員でもいらっしゃいますし、広島大学の原医研の客員教授もされたこともあります。私の友人でもあります

し、こういった私たちの会の活動にぜひ加わって、いいデータを出したいということで、いろいろ工夫をして作っていただきました。これは、アメリカ軍が撮った写真を、そのままではなくて、GIS・地理情報システムというやり方で、アメリカ軍が撮った航空写真、緯度・経度をきちっと確定をして、今の地図と重ね合せると、そういう作業をして、できるだけ今回試掘をする場所を、非常に厳密に、ピンポイントでこう可能になるような資料として出しています。さっと見られたらお分かりのように、今まで提示されていた地図ですね、これは資料にも書いてありますけれども、御存じの方、皆さん多いと思いますが、原爆爆心地。この本ですね。1969年。NHKと原医研が作った。その附属の資料。地図ですね。これをもとにして、それからさらに中国新聞がいろいろな方に、関係のある方に聞き取りをして、作っていく、で、できた地図なんですけれども、写真と地図を比べたらお分かりのように、天神町筋ですね、地図のほうではちょっと角ばった、カクカクと曲がっているような感じですけども、写真で見ると、こうやってゆるやかなカーブをしているんですね。だから示していただいた地図が、そのままその天神町筋の様子をやっぱり表しているっていうわけではない。こういうふうな航空写真、このようなGIS処理をした航空写真を使うことによって、よりピンポイントでですね、試掘場所の確定がしやすくなるということです。これを作る上で、これは平和推進課にお願いなんですけれども、既にお持ちかと思いますが、広島市の都市整備局都市計画課が作成された地図データ、これももう活用されているのかも分かりませんが、都市整備局都市計画課が持っている地図データが使えれば、さらにこれが精密にできていくというふうにおっしゃっていましたので、ぜひそれを活用していただきたいなと思っております。ちなみにですね、ここにあの黄色いマークで慰霊碑等とあります。それから、青いマークは被爆アオギリとかハマユウなんですけれども、これについては、緯度・経度が確定していないので、目視で見たので、今の場所とぴったり合っているかどうかはちょっと。これはあくまで目安ということですね。これは、必要だったら、それぞれの碑の緯度・経度をGPSデータを使ってもっと確定はできる。取り敢えず重ねてみましたというのが一つの内容です。

もう一つはですね、今、写真にですね、試掘候補地ということで赤い色でですね、示してあります。3か所ですね。それぞれ天神町筋、ゆるやかにカーブしている天神町筋の真ん中のほうに、今御提案のあった進藤小児科。それから少し北のほうに中村商店。酒問屋ですね。南の方側に天城旅館というふうに示してあります。これは、私たちの会で、先ほどお示した原爆爆心地の本をみんなで読み合わせをし、さらに、これは、もう少し後にできた爆心中島の生と死、そういった本を読み込み、さらに、いろんな縁（ゆかり）のある人たちの話を聞いて、いろいろ検討していきました。特に、私たちの会の世話人の一人は、この天城旅館、小さいときにお住まいだったということで、この辺りの様子を本当に懐かしく思い出しながら、ここはこうだった、こうだったと教えていただきながら提案してもらったものです。

それで、先ほども言いましたけれども、先ほどの印刷所とか、材木屋さんの所はですね、こういった本とか資料を見ても、あまりこう記述がないんですね。ぜひだから、たくさんいろんな情報がある所を取り入れてもらいたいんですね。一つは天城旅館。もう御存じとは思いますが、天城旅館。3階建てのものすごい大きな旅館だったんですね。で、例えば、オペラ歌手の藤原義江とか、陸上の織田幹雄とか南部忠平さん、そういう方たち、そういった方たちもよく使っていた。遠くから来られた商人、軍人がたくさん活用されていた。ただ大きいだけじゃない。そういうふうな本当に親しまれていたということですね。だけど、だんだん戦争、日本の敗戦が近づいてくる段階では、この旅館が、軍用旅舎と言いまして、まあ、軍人が使うという意味ですね、そういうかたちが変わっていきます。だから、天城旅館の玄関には、軍人、軍属専用になりましたから、銃を立て掛ける銃架が備え付けられていた。それから、地下室の、例えば、ちょっとこれは、朝日新聞社が出した爆心中島の生と死という本の引用なんですけれども、例えばこういうエピソードがありますね。出征する直前に郷里への惜別の思いを書き綴った最後の手

紙。上官の目を盗んで、兵士から手渡されたそれを、仲居たちがポストにそっと投函していた。そんな本土決戦の日々を天城で送り、戦場に向かった兵士たちの一体何人が再び日本の土を踏めただろうか、というような記述もあります。案外、その、広島、軍都であったということは皆様御承知と思いますが、軍都広島という側面ですね、そういう説明もできる。そして、実際に、ここの御主人というか、慶一さん、天城慶一さんは、この地下室の倉庫にですね、亡くなられているということ、御家族が発見されました。金の入歯が決め手となったというふうなことです。そういったことを、この天城旅館の全部はそれは難しいと思うんですけども、一部でも試掘して、そして、またそれが公開のほうにつながれば、たくさんのいろんなお話がですね、世界中の人に、次世代の人にも、伝えることができるというふうなことで、天城旅館を推薦したいと思います。それから、もう一つ北のほうにあります中村商店ですね。中村商店ですね、酒問屋、いろいろ、旧中島地区のことを、いろいろかかわりのある人から、インタビューとか、聞き取りをしている広島商業高校の先生からこの間聞いたんですが、あそこは、賀茂鶴とも関係があるそうですよということです。そういうふうな酒屋さんでありますけれども、割と御存じかと思いますが、先ほどもちょっと余談になりましたが、国立広島原爆（死没者）追悼（平和）祈念館、これができるときに、（広島）平和記念資料館で、企画展、特別展がありました。このパンフレットの中にも、この中村さんのことが出ております。ちょっと読みますが、店は酒卸業を営んでいる、中村泰さんら家族3人が店内で被爆、3人は火葬されたように焼け、遺骨の確認はそばにあった遺品に頼るしかなかった、というふうな記述があります。そして、ここで、生前身に着けていた焼け焦げた腕時計が見つかったりしています。

こういうふうにして、いろんな、この、すべての人の被爆の時の状況が分かれば一番いいんですけども、もう既にそれはちょっとなかなかかなわないので、こういうふうな被爆の時、あるいは被爆前の状況が分かるような場所をですね、試掘対象にぜひとも加えていただきたい、というふうに私たちの会としては考えて、御提案をした次第です。

（三浦座長）ちょっと確認させていただきますと、今、事務局のほうから、A-1からA-3までのトレンチ、試掘調査箇所が提案されていましたが、それに加えて、若しくは、それに代えて、どちらでございましょうか。

（多賀委員）進藤小児科については、かすっているもので、それでよろしいんですが、加えて、ということです。

（三浦座長）加えて、でございますね。

（多賀委員）はい。それをぜひ頑張ってほしいというか。場所が限られているというようなお話もありましたけれども、でもさっき言ったような、あまりこの情報がない所を掘っても、というふうなものですから。

（三浦座長）分かりました。

今、多賀委員の提案ですと、一応A-1からA-3までのトレンチはそのままお認めになって、さらに、それから外れているこの天城旅館と中村商店を加えるという御提案ですね。分かりました。

こういう御提案がありました。この多賀委員の意見に対しての、若しくは、もともとの事務局の提案に対しての、どちらでも構いませんので、御意見をお願いいたします。

（鈴木委員）多賀委員が言われた、御説明いただいたこと、すごくよく分かるんですけども、やはり試掘調査であまり多くの箇所にトレンチを入れるというのは、技術的と申しますか、あちこちを面倒見なきゃいけないので、非常に難しくなると思うんですよ。だから、できれば、集中したどこか1箇所に決めたほうが効率的だと思います。

で、市のほうにお示しいただいた計画の、試掘調査の後に確認調査というのをもう一度行いますので、試掘調査の結果、必ずしも良好な遺構が残っていないとか、あるいは生活の在り方の説明が非常に難しいということであれば、場合によっては試掘調査をやり直すとか、それから、確認調査のほうで少し広げてみるとかというような方法も残されてはおりますので、今のA-1～A-3の場所がベストかどうかというのは、ちょっと

まだ何とも分かりませんが、あまり追加して増やさないほうがいいのではないかと
というのが、考古学からの意見でございます。

(三浦座長) ありがとうございます。いかがでございましょうか。皆様方、ほかにございませ
んでしょうか。

(佐久間委員) 実際に発掘してみないと分からないのが現状だと思うんですね。ですから、
1箇所を中心にやるということなんですが、ここが駄目だったらここだ、というふうな
順番っていうものもあっていいんじゃないかと思うんです。

今、多賀委員がおっしゃったことに関連してですが、進藤小児科を中心にしてというこ
とですけども、実際に試掘してみないと分からないんですから、その結果によっては、
加えてやって、ということですね。

(多賀委員) 鈴木委員も佐久間委員も、おっしゃることもわかりますけれども、例えば出て
きて、あ、これが適当だという判断は誰がする、ということ。これが適当だという
判断は、これはどういうふうなかたちで判断する。私たちはちゃんとこういったデータ
があるから、これが適当だということで、提案しているんですが、先ほどの繰り返しに
なりますけれども、何もデータがない所で、なんか跡が出てきたから、これで行こうと
いうことになってしまうのは、それはおかしいと。やっぱりこれからずっと残っていっ
て、その人に見てもらおうというのは、そういうたくさんデータがあるほうがいいと思
いますね。それを優先していただきたいと。技術的なことはちょっと私たち分かりませ
ん。会としてはそういう考えであります。

(三浦座長) はい。多賀委員の意見ですと、要するに考古学的に出てきた遺物だけではなく
て、その被爆前の状況が伝わってくるかどうか、要するに物語ですね、そちらがあるか
どうかということを重視されている。ほかに御意見いただけませんか。

(高妻委員) 多賀委員のおっしゃること、よく分かるんですけども、作業のプロセスとし
て、この試掘調査というのがどういう動きをもって、どの規模でやるのか。その試掘調
査の成果をもとに、その後、どの面積で、さらに広げて調査していくのかということに
なってくると思うんです。ま、ちょっと不明瞭なのが、今後の全体的な発掘調査になっ
たときに、それがA-1、A-2、A-3のトレンチを中心とした所だけで終わってしま
うのか、あるいは、このトレンチ調査によって、地表面からどれぐらいの所に遺構が
よく残っているということが確認できれば、当然、天城旅館の所も、ある程度残ってい
るということが予想できるだろうということで、第二段階のトレンチを天城旅館の所
に入れて、あ、ここ、確かにありますねということで、もし地割(じわり)とかがよく残
っているというのがトレンチ調査で分かれば、それをずっと推定して、広げていくこと
は可能だと思うんです。このトレンチ調査の位置付けというのを、もう少し、ここでは、
はっきりさせたほうがいいんじゃないかなと思いますね。

(三浦座長) 高妻委員のほうから、トレンチ調査の位置付けということでございますが、事
務局のほうから説明できますか。

(事務局) はい。この試掘調査の位置付けでございますが、議題1で試掘調査の基本方針
を定めていただいたように、まずはその、名勝の保護、遺構の保存の観点からですね、
必要最小限で行うことと、あとは当然、試掘した結果を確実に展示整備につなげていく
というものでございます。

高妻委員が言われたように、トレンチを掘ってみないと、なかなか分からないというこ
ろと、あとは、このAゾーンが選ばれた一つの理由として、天神町筋、この通りが非
常に重要であるというのが前回で議論されたと思うんですけど、まず復元図と現況の関
係で、天神町筋が実際に地下のどこに埋まっているかというのが正直特定できていない
状況でございますので、このトレンチの意義として、まずは天神町筋を特定したいとい
う狙いもございまして。以上でございます。

(三浦座長) はい、ただいまの説明でよろしいですか。

それで、今日、トレンチの位置を決めなくてはいけないんですけども、多賀委員の御
提案の3箇所、これは、それぞれ戦前の話がよく分かっている。そこで、どういう方々

がどのようにして被爆されたか、そういう話もよく伝わっている。確かに、そういった遺跡と、その遺跡にまつわる物語というのが両方ありますと、それは訪れた方に対する情報の伝え方、若しくは、広島から発信することをよく分かっていたということ、非常に効果が高いとは思いますが、もう一つは、今回のこの発掘して展示するという目的なんですが、そういった物語のあるということも非常に重要なんですが、まず、多くのことが伝えられていない、要するに忘れ去られてしまっている被爆者の方も伝えなくちゃ、したがって物語があればそのほうがいいには違いないんですが、また、(物語の)ないほうの被爆された方々の無念の念を示す必要があるんじゃないかと思います。そういった意味で考えてみますと、この写真、今、多賀委員からいただいた写真を御覧になっていただきますと、この天神町筋、右側にありますね。このブロックをよく御覧になっていただきますと、左手は間口が4mから5m。だいたい2間半ですか、だいたい5mくらいだと思いますが、それくらいの幅の狭い民家が密集しているわけですね。したがってそこには非常にたくさんの方が住んでいて、そこには御老人もお子さんもたくさんの方がおいでになったということが非常によく分かるんです。要するに中島地区の中でも、このメインストリートである所は繁華街ですから、そういった繁華街的なものが並んでいる。天神町筋の東側のほうは、昔からお医者さんが多かった。比較的、お医者さんですから、間口の大きな家が並んでいる。そういったところで、中島地区に住んでいた方及びこの広島市全域で亡くなられた方の一般的な住まいの様子を示そうとしたときに、どれが一番ふさわしいのかということも考慮に入れていただきたいと思います。したがって、非常に大きな天城旅館、これは広島の被爆した中では、やはり特別なんですね。もちろん中村酒店、こちらのほうも大きな昔からの造り酒屋であったと。けどそちらのほうは、どちらかと言えば、特殊事例ですね。一般的なことを分かっていたときは、立派な三階建ての旅館があったということもあれですけども、非常に多くの方が暮らしていた姿を示そうとなると、それでいいのかなど。ちょっと特殊事例ですね。そういったようなことも考え合わせて、皆様方の御意見をいただきたいと思うんですが、どんなものでしょうか。

(箕牧委員) 多賀委員と鈴木委員の言われること、どちらもよく分かるんですが、今、市のほうから示されておるA-1、A-2、A-3、これを掘られて、そしてさらに掘る必要があれば、天城旅館とか酒屋さんを掘るというふうな話には行かないんですかね。

今、高妻委員が言われたのが、私は賛成です。

(三浦座長) 今回は、この試掘というのは、どこを最終的に展示するかという場所を決めるためのものなんですね。したがって、今A-1からA-3までの案が出ていますが、これは非常に妥当にできているようには思えるんですけども、その所の試掘した結果、もし非常に分かりやすい遺跡が出てきた場合ですと、その辺りを中心に発掘して、そこを展示するということになります。そうなりますと、中村酒店や天城旅館は、面積が広すぎまして、当初の目的を逸脱する。逆に言いますと、地下遺構を掘るということは、遺跡の破壊活動でありまして、一遍に大面積を露出させてしまって、それがきつと劣化することは間違いないんですが、まだそれに対する完全なる保存の技術等の目途があまり立っていない状態でございますから、あまりたくさんを危険にさらすのはどうかということで、したがって、まず効果のある、最小限度の所を掘って展示する。また、その後で、第二段階で考えるという考え方もある。ただし、試掘の場合ですと、取り敢えずは場所を決めるわけですから、今A-1からA-3までのトレンチの所で良好な状態が出てきたときに、新たにさらに試掘をするというのは逆にその意味がなくなってしまいます。A-1からA-3までの所で良好なものが得られなかったときは、また考え直すことになりますので、そのときはまあ天城旅館とか中村商店とかが候補に上がるかもしれませんが、取り敢えずのところA-1からA-3までも掘るというふうに皆さん方が指定された場合、今回の試掘の範囲には、この中村さんの所と天城旅館は入らないというふうになるものでございます。

(多賀委員) 一応写真のほうでは、中村商店、天城旅館の一带を赤で囲ってはいるんですけど

れども、当然これ全部を発掘保存ということを行っているわけではなくて、天神町筋に面する中村商店の一部とか、天城旅館の入口の辺りとか、そういう所だけでいいわけで、全体はもちろん無理です。そういうふうな考えで、一応、こういう場所を示したわけで、入口の一部、やっぱり天神町筋が出るのが非常に大事だと思うんですね。これを基本にしていろいろなことが分かりますから、天神町筋に接するその中村商店とか天城旅館の所とか、ちょっとそういうのも、試掘場所に加えていただきたいと思っております。

(三浦座長) なるほど。はい、分かりました。要するに、今回その2箇所をさらに増やすことですね。それにつきまして、皆様方がいかがでしょうか。

(鈴木委員) やはり試掘箇所の数を増やすというのは、それだけ、三浦座長が先ほどお話しいただいたように、地下の遺構を傷付ける可能性が大きくなりますので、できるだけ限定したいなというふうには私は思います。それから、先ほど三浦座長が今回のそのA-1、A-2、A-3の場所ですけれども、この天神町筋で過ごした、暮らした人々の日常生活、一般的な人々の生活をというのを、意義付けというのを、私、納得できますので、まずのところは、このA-1、A-2、A-3という所を試掘して、町並みの状況ですね、特に位置が重要になるかと思えますけれども、これを把握するといった方法が妥当ではないかと思った次第です。

(三浦座長) 多賀委員、いかがですか。

(多賀委員) 考古学的な観点というのは、私たち、持ち合わせていないので、それは、遺跡でも破壊につながったりとかいうことも知っているんですけども、たくさんでもまあ、私たちの考えとしては、そうなんです。

(三浦座長) 多賀委員の思いはよく分かります。よく分かりますが、試掘調査というと、要するに、今回、地下遺構をもっと全面的に大きく掘って、その上に覆屋(おおいや)を架けて、皆さんに見てもらうわけですね。したがって、A-1からA-3までの所の試掘で、非常に良好な遺構が見つかったときに、例えば中村酒店の所、若しくは天城旅館の所を、今度は逆に掘る意義がなくなってしまうんですね。要するに、そこを掘ったとしても、そこを展示するために、大きく掘って上屋を架ける、そうすると展示場所が3箇所に増えてしまう。そういうわけではなくて、今回1箇所だけ取り敢えず作ろうということで、また、この1箇所作った所の保存状況が非常にうまくいって、しかも世界中から非常に反響があって、もっとたくさん見せてくれという要求があったときは、当然、多賀委員の推された所も追加されるんでしょうけれども、今回、試掘場所を追加したとしても、被爆の実態がよく分かる、まあ、そういった意義はありますけれども、今回のこの会の目的は、どこを掘って展示施設を作るかということなんで、A-1からA-3までの所で、そこがよいとなったときに、新たに加える中村酒店と天城旅館の所を掘る意義が、今回の目的から逸脱しているような気がするんですが、どうぞございましょうか。

(福島委員) まあ、それぞれの思いがあって、今お話を聞いていても、だいたい両方分かりますが、やっぱり集中的にその展示物を見せるほうが効果的な中で、思いの関係をその所へ、例えば、天城旅館はこういうかたちの物語がどうこう、このたびは発掘はできないけれども、それから中村さんの所ですね、要するに、展示する所へ、隣接の、皆さんにお知らせする面があれば、そのスペースは、文章とか、トークとか、写真とか、できると思うんで、発掘しないでも、そういった連携を持ったかたちのものを考えていただいたら、前へ進むんじゃないかな。今お話を聞いていたら、どうしても、対立といったら大変失礼ですけども、思いがやっぱり違いますので、今お話を聞いて、私自身はそんな感じでうまくまとめていただいたらいいかなと思います。

(三浦座長) はい、ありがとうございます。今の御意見を伺いますと、今回の発掘をして展示をするということにつきましては、この天神町筋の事務局提案の辺り。ただしこれは当然、試掘トレンチでございますので、この範囲を見たときに、どちらかに拡張、拡張は当然していきますので、したがって、もう少し北側までいく、若しくは南、又は道を

挟んで反対側、それは掘ってみて、また状況が変わるかと思います。今、多賀委員の御提案の所、非常に説得のある所でございますから、今回は発掘をしない、逆に、掲示板・案内板等で現地にその説明を付けていくと、そのような御意見でしょうか。

(福島委員) ええ、そういうことで。僕としてはね。

(三浦座長) そういう御提案でございます。

(福島委員) どのような所かという情報発信ということで。

(三浦座長) いろいろな情報発信の方法があると思いますから、そういうことで言うと、多賀委員の提案された所、今回発掘しなかったほかの場所も随分たくさんあると思いますが、そういった所で、この被爆の実態を皆さん方に示すような、そういったような工夫も、今後必要になってくるかと思います。

(福島委員) 見せるときにね。

(三浦座長) もちろん、この被爆遺構の展示の場所に合わせて解説するというのも出てくると思います。それは今後の展示施設の、どのようにするのかについて、また、そのときにしっかりと皆様方に御意見を聞いていきたいと思っております。

ほかに、このA-1からA-3までに関して御意見等ございませんでしょうか。もう少し位置が違ったほうがよいとか。長さについて。そのほか、そういった具体的な御意見をいただきたいと思っております。

(多賀委員) 先ほどもちょっと話題になりましたが、「(主な) 流れ」なんですが、A-1、A-2、A-3を掘りました。で、こんなものが出てきました、と。その段階でまた、これは、懇談会が開かれて、当然ながら、ここで行くかどうかということは検討されるわけですね。

(三浦座長) 案ではそうなっております。

(多賀委員) ちょっと見ましたけれども、これがよいという判断を、どういう根拠ですか。その辺はやっぱり議論しないと、残りがいいからだとしても、それはぜひここで詰めてもらいたいと思っております。

(三浦座長) 通常でしたら、あらかじめそういった判断根拠を示すというのが正当なやり方かもしれませんが、なにぶんにも考古の発掘は、掘ってみますと、想定外の事態が非常に多く出てきますので、こういう状態になったときに妥当であると、そのような判断はなかなかしづらいですね。だから一般論的な判断を先に示すということはちょっと難しい。多賀委員のおっしゃることはごもっともだと思うんですけども、それは少し御寛恕いただきたい。

(多賀委員) A-1、2、3で試掘をした後の、結果を、懇談会だけじゃなくて、当然市民の方にも、こういうふうなのが出てきましたよと。

(三浦座長) 当然、一般公開いたします。もちろん一般公開しますし、そのときに出てきた内容によりましては、大きな要因とか新しい情報も出てくるかもわかりません。

(佐久間委員) 掘削する場所へ、私たちも見に行くことができるんですか。

(三浦座長) 先ほど申し上げましたように、一般公開は完全に試掘が終わって、どの遺跡がどうであるかという判断がつきましたときに、これは一般市民に対しても公開をいたします。その発掘の途中におきましては、発掘現場が非常にある程度危険なものであることと、それからもう一つは、中を歩いていただきますと、発掘の遺跡が傷みますので、一般の方々の立ち入りはお断りいたしますが、委員の皆様方の御希望がありましたら、発掘担当の所に届出をいただければ、許可できるようにしていただきたいと思っております、事務局、いかがでございますか。

(事務局) それで大丈夫でございます。

(三浦座長) ということでございますから、発掘途中は、委員の皆様方は、ぜひとも自分の目で確かめて、何か注文がありましたら、その場で。すべて注文が通じるかどうかは分かりませんが、

(多賀委員) ちょっと確認ですけれども、この試掘をやっているときに、ここは今こういうことで試掘をしていますよという広報、当然されると思うんですけども、(広島平和記

念)資料館本館の地下の所も、何も説明がないから分かんと言われてやったんですが、たくさん耐震調査のためにというのがありますけれども、やっぱりそういうことを幅広く知らせて、中にはもちろん入ったら難しいかもわかりませんが、そういう広報はぜひしっかりしてもらって、それはまあ、いろんな市民の方たちに関心を持ってもらいたい。また、ほかの情報がまた入ってくるかもしれないから。なんで、それはぜひやっていただきたいと思います。

(三浦座長)それはよろしくお願いいたします。ほかは御意見ございませんでしょうか。

(鈴木委員)試掘調査の、場所についてはいいんですけれども、細かいところで、以前(広島)平和記念資料館(本館)の地下のときに想定していた町割(まちわり)より、少しずれていたということが発表されていたかと思うんですけれども、今回もそういったことは想定されるでしょうか。

(事務局)はい、この現況図、復元図と現況の関係図というのが、あくまでどこまで正確かというのがあまり分かりませんので、それについては当然想定しておりまして、そうした場合にはトレンチを延長だったり、拡張といったことを、そこを含めて、文化庁と協議してまいりたいと考えています。

(鈴木委員)できれば今日、多賀委員から配っていただいたような、GPSをもとにした図とかですね、それから、前回の(広島)平和記念資料館(本館)の成果で、修正すべき点もあるかと思しますので、何度も試掘、トレンチを開けるのは望ましくないの、できるだけその正確な位置を求めてですね、そういった場所にトレンチを入れていただきたいなということを要望します。

(三浦座長)はい。よろしくお願いいたします。ほかに御意見ございませんでしょうか。

それでは、トレンチを入れる箇所について、事務局提案がA-1からA-3ということでございますが、この位置と規模につきまして、いかがでございますか。御同意いただけますでしょうか。

《一同、同意》

(三浦座長)ありがとうございます。御同意いただけたようでございますので、事務局提案どおり、トレンチの箇所を決定したいと思います。

このトレンチを開ける際に、特に留意すべきこと、注意すべきこと等がございましたら、高妻委員、鈴木委員、御助言をいただきたいんですが、どうでしょうか。

(鈴木委員)特にどこまで残すか、掘るかというのが難しいところなんです、被爆遺構面というのはおそらく確定できると思いますけれども、その上に例えば被爆直後の整地層とか、焼土層とか、そういったものが、平和(記念)公園の整備の前の段階で、いろいろ手が加えられていると思いますので、そのあたりはちょっと、その都度、できれば、現地で委員の方とか専門家の方に見ていただいて、指導を受けて、まあ、タイミングがなかなか難しい、時間が限られている中でなかなか難しいかと思っておりますけれども、そのあたりもちょっと御配慮いただけたらなと思います。

(三浦座長)はい、今の鈴木委員の提案は非常に重要でございまして、今回発掘する遺構というのはですね、通常の考古の遺跡とだいぶ様(さま)が違うんですね。通常の考古の遺跡でしたら、一番地下に発掘すべき遺構群というのがありますよね。まあ、その下にもっと古い遺構群があるんでしょうけれども、今回はまあ被爆の遺構。その上に遺物が載っているんですが、今回は、整地をした時に、ほかの所から動かされてきた遺物が載っているわけですから、通常でしたら上に載っている攪乱層若しくは新しい地表層にも実は重要な被爆遺物が入り込んでいる、そういうちょっと特殊な事例なんですね。したがって、私どももあまり経験したことのないような遺跡でございますから、ぜひとも、考古の専門家、できましたら鈴木委員に立ち会っていただくのが、一番よろしいかもしれませんけれども。鈴木委員もお忙しいでしょうけれども。この発掘につきまして、少し慎重になさったほうがよろしいかと思っております。ほかはありますか。

(高妻委員)そもそものところになるかもしれませんが、被爆遺構という言葉で、今、(被爆したものも、被爆前のものも)全部ひっくるめて、話をしているんですけれども、目的

は被爆前の遺構も含めてということですよ。

(三浦座長) これ結構難しいところでありまして、被爆前は建物が建っていたんですよ。で、被爆によって建物は焼け落ちていますから、焼け落ちた建物の残骸と、それからいろんな遺物が、焼損した遺物が、地表面に堆積した状態になっています。だから、今回のその遺構面というのは、通常の地面ではなくて、上に載っているいろんな遺物なども合わせた所が遺構面で、ややこしいんです。

(高妻委員) いや、試掘の時にどこまで下げるのかというのが、問題になってくると思います。先ほどのお話を聞いていると、当時の生活も明らかにして、その生活が原爆によって奪われたという状況を出したいということですので、被爆遺構という言葉の定義が非常に大事だと思うんですけども、被爆遺構というのは、だから、被爆する前の状況があって、それが原爆によってどうやって破壊されたかということも含めるという広義で考えるということで、試掘もおそらく整地土を除去して、それから被爆した当時の面を出すと。その後、サブトレ(※)を入れて、被爆していない建物の下部の構造を出すとかということになってくるのかどうか。それがちょっと調査方法として、分からない。

(三浦座長) 最終的な展示の仕方の問題で、結局、上に積もっている焼損遺物がですね、それが本来の被爆の状況ですね。で、その焼損遺物を取り敢えず取り上げて、その下の本来の考古学的遺構面を出すということは逆に言うと、被爆遺構を破壊することになりますね。したがって、どこでその試掘を止めるかというのが、これは極めて難しい。しかも整地土の中にもともと被爆遺物がいっぱい入っている。これは考古学的にかなり難しい状況になります。したがって、それがよく分かる専門家をですね、立ち会っていただかないと、深く掘り込み過ぎてしまう。高妻委員が今おっしゃったことは非常に重要なことですので、あらかじめどこまで掘るかということをお決めになって、だから(被爆当時の)地面まで出すのではなくて、被爆した遺物が出てきたら、その遺物の所で止めてしまう。取り敢えずそういうことですね。今、高妻委員がおっしゃったように、サブトレを入れて、もう一段深く掘ることはどうされますか。考古の通常でしたら、サブトレを入れてもう一つ下まで行くんですが、今回、最終展示の形を考えると、サブトレ自体が破壊活動になってしまうような気がしますけれども。ただ、掘って見ないと分からないところもあります。

(鈴木委員) ええ、そうですね。ケースバイケースですので、今決めても非常に難しいと思います。

(三浦座長) 結局、整地層で埋めてしまう前に、ある程度取り片付けがされている場合もある。だから難しいところはありますけれども、取り敢えず止めるのは、被爆焼損遺物が出てきたら、その遺物の所で止めるというのは当然だろうとは思いますが、そこから先については、また考えようということなんですかね。

(鈴木委員) はい。

(三浦座長) 高妻委員、それでよろしいですか。

(高妻委員) 最終的にどういうふうな展示をするかということに非常に関わってくると思うんですが、被爆した直後の状況だけを見せられたときに、多くの方が、それが以前はどういう姿だったのかということは想像できないですよ。だから、そういった意味で、一部は下げる。下げて、健全な状況のときにはこうでしたよというところが分かるものを作っておいて、それも展示するという考え方もあると思います。ですので、発掘調査、トレンチを入れていただいているときに、必要があると判断された場合には下げていただくというふうにしておいたほうが、調査のフレキシビリティとしてはあるんじゃないかなと。全部焼損した所で止めるんだというふうに決めてしまうと、ここをもう一つ、だめ押しで、下げたほうがいいんだけどなどというのがちょっと制限されると思うので。

(三浦座長) サブトレを入れるかどうかの判断は、専門家じゃないと無理ですので、鈴木委員か高妻委員、どちらかが決定していただかないと。よろしいでしょうか。

では、焼損遺物が出てきたときに、そこから先を掘るかどうかにつきましては、鈴木委

員の意見を聴いて決めると。で、皆様、そういうことでよろしいですか。わざわざこの委員会を開かなくてもですね。どうでしょうか。

(多賀委員) 私は開いてほしい。

(三浦座長) ただ、その決定するときに、多賀委員が同行すればいいのでは。別に委員の方々も、事前に承諾を得て、入っていただければいいことですから。

(鈴木委員) 場合によっては、高妻委員に写真とかお送りして、状況を御説明してですね、相談させていただければ。私個人の判断では、非常に責任が重いので。

(三浦座長) 分かりました。では、取り敢えず鈴木委員が現地で判断する。その場合、多賀委員のほうもなるべく同行していただく。非常に判断が難しいところは、高妻委員に御意見を伺う。もちろんこれは、判断がつかないところもあるなど、やっぱり出てきたときの状況につきまして、最近ですと、慰霊碑かなんかで、反対意見が出てきますので、その都度、委員の皆様方にお知らせするのがよいですね。では、発掘の状況を、折々、委員の方々にお送りして、委員の方々はもし何か意見があったときは、そのまま事務局におっしゃってください。どうしてもその判断がつかないという場合におきましては、臨時にこの会を開いて決定します。まあ、一般的には(懇談会は)開かないで、鈴木委員が判断してください。ほかの委員の意見も場合によっては聞く。そのようなフレキシブルなカタチで進めていただきたいと思いますと思いますが、よろしいですか。

《一同、同意》

(三浦座長) はい、ありがとうございます。それでは、議題2については、これで終わりたいと思います。その他、ございましたらお願いいたします。

(事務局) はい、ありがとうございました。議題1でも御説明しましたとおり、まずは本日の懇談会の御意見を踏まえまして、文化庁と試掘調査箇所について協議の上、実際に試掘調査を行ってまいりたいと考えています。試掘調査の結果につきましては、今、議論がございましたように、逐次、委員の皆様方にお示しするとともに、次回の懇談会において、まとめたものを委員の皆様方に御報告させていただくとともに、その段階で一般には公表させていただきたいと考えております。

また、試掘調査において被爆遺構が確認された場合には、次回の懇談会において、同時に、整備方針の素案をお示しできたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

次回の懇談会については3月頃に開催する予定ではありますが、文化庁との協議や試掘調査の状況によっては、開催時期がずれることも考えられますので、あらかじめ御了承ください。日程が決まりましたら、また事務局から委員の皆様方に御連絡させていただきます。事務局からは以上でございます。

(三浦座長) 追加で申し訳ないと思うのですが、そうすると、今のところ、次回の懇談会は試掘調査が終わった後ということですね。

(事務局) その予定でございます。

(三浦座長) 一般公開をしてほしいんですが、この委員の皆様方、それぞれ発掘調査中に行かれてくださるのが非常に大事なことなんですが、全員でこの発掘の成果を検証するというのは、ほかの遺跡なんかではやりますので、それも必要かと思いますが、その次回の委員会のときに、現地の視察をした後に、会を開くんですか。それとも、その発掘調査の状況は、委員の方々それぞれ都合のつく日に見ていただいて、会だけは3月、どちらでございませうか。

(事務局) 今考えておりますのは、発掘調査についてはそれぞれ御都合のつくときに見ていただいて、次回懇談会としては、(試掘)結果をまとめたものと、その段階の整備方針素案をまとめてお示しできればと考えております。

(三浦座長) なるほど、分かりました。それでは、次の懇談会のときは、発掘は終わってしまっていますから、それよりも前に、委員の方々が発掘調査がある程度成果が出るか、若しくは結果が分かったときに、御都合のよいときに、できたら現場を見ておいていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(福島委員) はい。発掘調査はだいたい予定としては、いつ頃からスタートしますか。

(事務局) はい。今後の文化庁との協議がございますので、それを踏まえまして、委員の皆様には御連絡させていただこうと思います。

(福島委員) もちろんそうですけれども、3月までには終わらすということですから、だいたいのスケジュールが分かれば。

(事務局) 年内には入りたいと思っています。

(三浦座長) では、折々の発掘状況は皆様方に、それぞれ、今回何が出てきたか、そういったことをお知らせいただきたいと思います。そのほか、皆様方何かおっしゃりたいことはございますか。よろしいですか。では、ありがとうございます。

(事務局) 本日は長時間にわたりありがとうございました。これをもちまして、第2回懇談会を閉会いたします。

【事務局注釈】

※サブトレ——サブトレンチの略。

【懇談会としての意見（総括）】

◎試掘調査箇所は、事務局提案どおり（A-1～A-3）とする。

◎被爆遺構面の判断に際しては、慎重に行うため、考古学の専門家である鈴木委員の意見を伺う。

◎被爆前の状況を確認する必要があると判断された場合には、サブトレンチを入れる。ただし、サブトレンチを入れるということは被爆遺構を破壊することになるので、サブトレンチを入れる判断については、鈴木委員の意見を伺う。非常に判断が難しいところは、高妻委員にも意見を伺う。